

大震災・復興ニュース（第120報）

平成25年8月8日
仙台地方振興事務所水産漁港部

1 水産業復旧・復興に向けた対応状況（国及び県全体の動き）

宮城県内の水産物の放射性物質測定結果について

1 測定年月日 平成25年8月2日～8月6日

2 測定分析機関 (公財)日本分析センター, いであ(株), (一財)日本冷凍食品検査協会
(株)総合水研究所, (一財)九州環境管理協会。

3 測定結果

・すべての検査品目について、基準値を下回り、安全性に問題のないことが確認されました。

なお、「不検出」とは、放射性物質の濃度が、検出下限値に満たない（検出下限値未満である）ことを指します。

水産物（採取日 平成25年7月26日～8月1日）

（単位：ベクレル/kg）

種別	漁獲場所	放射性セシウム	種別	漁獲場所	放射性セシウム
スズキ	鮫浦湾	2.6	ヒガンフグ	東松島市浜市沖	2.6
ヒラメ	鮫浦湾	3.9	ヒガンフグ	岩沼市二の倉	不検出
ヒラメ	気仙沼市唐桑沖	不検出	ヒラマサ	東松島市浜市沖	3.9
アカカマス	東松島市浜市沖	1.0	ヒラメ	東松島市浜市沖	1.8
カタクチイワシ	三陸南部沖	0.46	ヒラメ	仙台湾	不検出
スズキ	東松島市浜市沖	2.6	ヒラメ	岩沼市二の倉	1.4
スズキ	東松島市浜市沖	1.4	ヒラメ	宮城県沖	4.7
スズキ	岩沼市二の倉	1.5	ヒラメ	宮城県沖	不検出
ニベ	東松島市浜市沖	5.6	-	-	-

2 管内の復興に向けた動き

<水産漁港部からのお知らせ>

中小企業等グループ施設等復旧整備補助事業の進捗状況。

・東日本大震災により、塩釜市内の水産加工会社の施設や設備は、大きな被害を受けました。このため、国や県の支援を受け「中小企業等グループ施設等復旧整備補助事業」を導入し、水産加工施設の復旧を進めています。この事業は、県の認定を受けた復興事業計画に基づき、震災により被害を受けた水産加工施設や設備に対し補助するもので、管内では87社が2グループを組織し（平成23年度認定：46社、平成24年度認定：41社）総事業費7,783,800千円（平成23年度事業：4,015,230千円、平成24年度事業3,768,570千円）で事業を実施中です。

平成25年7月末日現在で、59社（平成23年度事業：42社、平成24年度事業：17社）が事業を完了し、残りの28社も今年度中に事業を完了する予定です。

中小企業等グループ施設等復旧整備補助事業で整備した施設等



外壁の修繕を行った水産加工場

包装機器の整備



蒲鉾製造ラインの整備



アサリ漁・アワビ漁が終漁しました。

・5月頃から行われていた管内のアサリ・アワビ漁が、7月いっぱいほぼ終漁となりました。アサリについては、宮城県漁業協同組合による共販の速報値で累計数量 55.3 t と震災以前の平成21年の数量と比較すると67%であったものの、昨年と比較すると1.5倍の水揚げとなりました。震災後の漁場環境の変化や漁業者の減少によって、漁獲量の減少が心配されていましたが、次第に以前の水準に戻りつつあるようです。

アワビ漁については、漁獲数量・金額とも取りまとめ中ですが、今後も資源を維持し漁獲を継続していくために、種苗放流の早期再開が待ち望まれています。



アワビの集荷状況



漁獲されたアサリ